

2歳児って???

2023.02.01 ほし・はなぐみ

子どもはおおよそ3歳までに人格の土台をつくります。五感を働かせ、からだを思いっきり動かしながら、自分がどの位置にいるのかを知ろうとするのです。大人は秩序だった環境を用意して、子どもが混乱せずに自分の地図をつくれるようにしてあげることが大切です。子どもが今、なににこだわっているかをよく見極めてみましょう。

自分でやりたいがならやらせてみましょう。

「自分でしたい」という自立への第一歩は1歳の誕生日前からです。この頃に「汚れると面倒」「ちいさいからできない」と大人がしてあげるばかりでは「できない、やって」と言うだけで、自分からしようとしないう子になってしまいます。もちろん、やらせても全然できないし、大人はイライラ、ハラハラします。つい手や口を出してしまいますが、それでは子どもが成長するせっかくの機会をひとつ失うことにも繋がります。子どもが自分で出来ることは何かをよく見定めることが大切です。



子どもが自分でできるような工夫をして

あげましょう。

自分の身のまわりのことは自分でできます。子どもがうまくできるようにちょっと工夫してあげよう。衣服では首回りがゆったりしていると、頭の出し入れがしやすいので、自分で着脱できます。おもちゃでは6個～8個を手の届く棚に置いてあげましょう。ここに戻すということが分かってくると自分でおもちゃを元に戻すようになります。

できそうなことを毎日の日課にしましょう。

喜んでまわりの世話をしたがる時期です。共同作業が好きなので、お母さんやお父さんがやっていることに興味を示し、参加しようとしています。子どものサイズに合った道具を用意して一緒にできるようにしてあげましょう。



子どものペースで

1歳半から2歳くらいの子どもの歩き方は大人とは異なります。大人は目的地に到着するために一定のリズムで歩くのに対し、子どもは歩くリズムが決まっていません。立ち止まってはじっとなにかを観察し、縁石の上でバランスをとりながら歩いてみたり、上り下りしたり、様々な発見をしながら歩きます。そうやって「歩く」運動を仕上げていくのです。子どもの歩きたい気持ちに対して大人ができる最大のサポートはなるべくベビーカーを使わず、子どもを歩かせることです。